

業務部速報



No. 28

発行 20.11.5

JR東労組 業務部

申6号 2020年度年末手当等に関する申し入れ団体交渉を行う！②

営業部会

輸送障害時、お客さまの蜜を避けるためにできる限り駅内の連絡通路の行き来を避けるような対応をしている。コロナ感染防止のために職場内、券売機などの消毒を毎日行い、窓口では間隔を開けて並んでいただくよう案内も行っている。増収に向けて、駅のイベントとして非接触のデジタルスタンプラリーの取組み等も取り入れ集客をしてきた。鉄道を利用した国内観光流動をつくり収入を得るための大人の休日倶楽部パスの臨時発売等も、感染リスクへの配慮もして対応してきた。

運輸車両部会

適宜車内放送や換気、マスクの着用の協力要請など、お客さまに安心して利用できる車内環境をつくり出している。

在宅予備においても、ひとり一人の成長につながるように努力している。

マスクをつけての業務で熱中症リスクがあるなか、安全、安定輸送のため感染防止策を行い、お客さまに安心していただく努力もしている。

検修職場では、汚物清掃、トイレ修繕等、感染の不安のなか、輸送を支えるため奮闘している。

工務部会

グループ作業が多く、三密を防ぐため、オフィス通勤やテレワークにも取り組んできた。ギリギリの作業員数で法令に定められた期日のある設備の検査は、検査周期を延ばすことができないため、感染リスクがある中でもパートナー会社と一体となって行ってきた。将来に魅力がないと離職する若手が多くなっている。

コストダウンにも職場全体で取り組んでいる。修繕費の吸い上げで、通い交換の見直しを行っている。今年度見送ったところで、いずれはしわ寄せがくるとの声もある。数百円でもコストを削減しようと職場で実施している。それぞれが変化に対応してきた努力は受け止めてほしい。

かんり部会・きかく部会

組織改編やシステムチェンジ、規程の改正、デジタル化などそれらに対応すべく努力している。コロナや変革を言い訳に安全やサービスのレベルを落としてはいけない。これまで培ってきた経験を活かし協力的に担っている。また現場管理者も施策のスピードが早くきめ細やかな管理、母の心で人を慮った管理が大変である。目先のコストダウンやコスト構造の変化に一生懸命対応している。

2年連続の赤字は出せないと言われているが、目標が高く感じる。黒字経営は必達である。意欲をもって業務に向かわなければならない。

職場から寄せられた各系統の声を訴える！
会社は職場の声に答えるべきだ！



医療部会

社員の健康管理だけでなく、地域医療を担う医療従事者として、共通で触れる場所の消毒や新たにアルコールを設置し、利用者の安全・安心に努めた。新型コロナウイルス感染症患者やその疑いのある患者に接しなければいけない業務に就いていることから、自分自身だけではなく、家族の健康に気を遣い、現場目線で何が出来るのかを考え、細心の注意を払いながら感染防止に努め業務を行っている。

生活実感

社宅の居住年数制限に伴い、マイホームの購入をしている組合員・社員が多くいる。「毎月の手取りが他企業に比べて少ないと感じる。手当が少なくて住宅ローンの返済は年末手当を多く充当している」「奨学金の支払いに充てている」という声が職場から多く出されている。

JR東日本会社の魅力は安定感であり、厳しい世間相場の中でも安定して年末手当が支払われることは、人材流出を防ぎ、優秀な人材確保の観点からも重要だ！

その③へ続く